

今村復興大臣岩手県訪問ぶら下がり記者会見録
(平成28年9月10日(土) 15:23~15:30 於) 岩手県岩泉町役場)

1. 発言要旨

皆さん、御苦労さまでございます。

まず最初に、今回こちらに参ったわけでありましたが、お亡くなりになった方、あるいは被災された方に心からお悔やみを申し上げ、またお見舞いを申し上げる次第であります。そして、一日も早い復旧をすることがそういった方々への弔いになるという思いを更に強くしたところであります。

今日は、まず達増知事とお会いして全体の概況を伺ってまいりました。そしてその後、久慈市に行つて、そしてこちらに参ったわけであります。

百聞は一見にしかずと言いますが、本当に大変な状況だなということに改めて感じたところであります。特に、今まで3.11は海からの被災でありましたけど、今回は山から、しかも台風が来たせいで、ちょうど海からの高い潮が押し寄せる、山からは降った雨が、まとまってどっと来る。ちょうどその被災されたところが一番水があふれるという非常に大変な状況だったということがよく分かりました。

特に、先ほど町長らと「楽ん楽ん」周辺に行きますと、あれだけ広いところなのに水が2階の上まで来たということは相当な量の水が来たんだなということ、そしてまた途中のいろんな光景を見ても、いわゆる杉や人工林じゃなくて灌木ですね、広葉樹、そういったものが根こそぎ流されているという状況だったので、相当な水の勢いだったんだなということを感じたところであります。

そして、久慈市長からは、せっかくこうやって3.11から立ち直ってきたのに、またこんなことになったということで、しかも、前回と違って市の中心がやられたということで大変落ち込んでおられましたが、とにかく一日も早く復興しましょうということで元気づけてまいったところであります。いろいろ御要望もありましたが、我々もしっかりそれに対して、まさに復興庁はいろんな関係役所のまとめ役、横串役といいますか役割を持っているわけがありますので、これからもハード面、ソフト面にもしっかりと対応していきたいと思っております。

それから、岩泉町長からもまた色々とお話を伺いまして、話の節々に非常に感じたのは、やっぱり自分たちの町は自分たちで盛り上げていくんだということで、第三セクターをつくって、そういった村おこし、町おこしをやっていくと、そういうことで頑張つてこられたわけでありまして、それが今回こういうことで大変

な目に遭われたわけでありますが、あるいは私は企業家精神というものの、こんなことで負けてたまるかという思いが一番のこれからのエネルギーになると思います。そういったものをしっかり出していただいて、それをもとに我々も国のほうでもしっかりこの対応をさせていただきたいという思いを新たにしたところでございます。

具体的には、道路の復旧を初め通信施設あるいは農業関係、そしてまた企業誘致先用の今後どうするか、何としてどうやって戻ってもらうか、そういったことも含めたお話もあったわけでありますので、個別具体的な話はまたしっかり詰めていきたいと思いますところでお話をしたところであります。概略は以上です。

2. 質疑応答

(問) 冒頭、今日、避難所に行かれたと思うんですけども、被災された避難民の方からはどういったお話があって、それについてどのように支援をしていきたいという所感でいらっしゃいますでしょうか。

(答) 今日は、行きましたら、皆さん、またお家に帰っておられるのか、恐らく片づけに行ったりされているんじゃないかと思いましたが、大勢はおられなかったんですけど、だけど、おばあちゃんたちが、私に対しても深々と頭を下げてお願いしますと、助けてくださいと言われていたので、本当にじーンとききました。

(問) 今後、復興庁としてはどのような支援を岩泉町にお考えですか。例えば、東日本大震災のときは死者13名ということなんですけれども、今回の台風でも18名がお亡くなりになられたということで東日本大震災以上なんですけれども、これについてはいかがですか。

(答) これは今お話をしたように、やはり現地の最高責任者は町長さんですから、また一番事情が詳しいわけですから、よくお話を伺って、できるだけ柔軟に予算の運用その他等々をやっていきたいと思えます。受入れもそうありますけど、激甚災害という話もあります。これはまた北海道なども含めてとりいろんな被害の総額なりがある程度出てきた段階でそういう動きになっていくんじゃないかなというふうに思っているところであります。

(問) 関連なんですけれども、今、激甚の話が出ましたが、東日本大震災のスキームと同じようなスキームを台風被害に当てはめるような、そういうお考えとか働きかけとかはどうでしょうか。

(答) それはやはり、ちょっと違うと思えますね。東日本大震災では、まさに広域に亘り、大規模でありますし、今回は非常に厳しい災害なんですけど、やはり従来の激甚災害的な要素で対応していくと

いうことになると思いますけどね。ただ、関係するのは、例えば復興庁がやってきた漁港の修繕等の事業をやっていて、そういったものが完成途中でやられたというようなところは、当然これは復興庁の予算を使ってやるというようなことはあり得ると思います。

(問) 務台復興政務官が先日1日に「楽ん楽ん」を視察したんですけれども、そのときに革靴を履いていらっしゃって、水たまりがあって、そこをおぶって渡っていただいたと、そういう案件がネットや周辺の住民なんかも、いかがなものかという話が出ているんですけれども、その点を大臣は確認していらっしゃるかという点と、その件についてどのようにお感じになっているかということ。

(答) 私も早速その話を聞いて、何やっているんだということで、しっかり叱責をしました。本人も大変恐縮しておりました、何せ、ばたばたやっていたものだから、ついついそこまで気が至りませんでしたということを書いていましたが、とにかく本人も大変反省しておりますし、また、たしか松本大臣からも、内閣府を兼務しておりますから、そういった注意を厳しく受けているはずであります。これについては、私からも担当としてお詫びを申し上げます。申し訳ありませんでした。

(問) ありがとうございます。

(答) 皆さんもまた力をかけてください。

(以 上)